

平成29年6月20日

農作物生育・技術情報3号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲生育状況（6月15日現在）

品 種	生 育 状 況		
	項 目	29年	平 年
ななつぼし	草丈(cm)	27.5	27.9
	葉数(葉)	6.0	6.2
	莖数(本/m ²)	119.0	132.9
	分けつ始 遅速日数	6月12日 -2	6月10日 -

6月上旬の低温により莖数はやや少ないものの生育は平年並みです。風が冷たいと感じても日射しが強い場合は、水温は気温を上回っています。水の保温効果を利用して初期生育を促進させましょう。

技 術 対 策

- ・ 莖数を確保するため、好天時は3cm～4cmの浅水管理を行い、株もとの地温を高め分けつを促す。ただし、田面は露出させないようにし、低温や強風時は水位を上げて苗を保護する。入水は気温と水温の差が少ない夜間から早朝に行い、日中は止水にして水温の上昇を図る。
- ・ ワキがひどい水田は、好天時に水田の中干し(3～4日)を行う。ただし、生育が悪い場合は水の入れ替えにとどめる。

2 主要野菜の生育状況

作 物 名	生 育 状 況	技 術 対 策
トマト	4月定植 ・ 第1～2花房収穫中で第6～7花房が開花。 ・ 5段花房付近で葉先枯れ症状が見られる。 ・ 低温、曇雨天のため灰色かび病が発生している。 ・ アザミウマ類の発生が見られる。 5月定植 ・ 第3～4花房開花中。	・ 莖葉の過繁茂は、灰色かび病、葉かび病などを誘発するので、ベットの内側の葉を中心に摘葉し、適宜薬剤散布を行う。 ・ 草勢が衰えないように、必要に応じて追肥・かん水・葉面散布等を行う。
ハウス軟白ねぎ	・ 1月定植収穫中。 ・ ハモグリバエ類、タマネギバエ、アザミウマ類、葉先枯れが見られる。	・ ハウス周辺の除草、残渣の処理を徹底する。 ・ 粘着版を設置し早期防除に努める。
アスパラガス (ハウス立茎)	・ 立茎移行期～夏芽収穫中。 ・ 灰色かび病、ジュウソクバガハムシ、アザミウマ類の発生が見られる。	・ 樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。またハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ ハウス周辺の除草を行う。

3 牧草生育状況（6月15日現在）

作物名	生育状況				生育期節	適要
	項目	29年	平年	遅速日数	出穂始(平年値)	
牧草	草丈	89.2cm	89.3cm	±0	6/15(6/13)	生育は平年並み
デントコーン	草丈	19.7cm	25.0cm	-2		低温日照不足のため、生育は緩慢である
	葉数	3.9葉	4.4葉	-2		

※多くのほ場でチモシーが出穂し、刈り取り適期となっています。

※牧草栄養価を重視し、刈り取り時期が遅れないように注意してください。

※牧草収穫後は追肥しましょう。追肥により、分けつが確保され来年につながります。

※飼料用とうもろこし圃場では雑草が伸びてきています。早めの除草剤処理を行いましょう。

4 畑作

(1) ばれいしょ

○培土 本培土は萌芽後21～25日後、莖長25cm頃を目安に行います。遅れると根やストロンを切断するので早めに行いましょう。

○疫病 疫病は着蕾期以降から発生が見られ、降雨による多湿で蔓延しやすくなります。予防に努めましょう。

(2) てん菜

○根腐病 高温多湿で多発します。予防防除に努めてください。

○ヨトウガ ほ場をよく観察して、虫や食痕を確認してから薬剤を散布しましょう。

*詳しくは「てん菜栽培技術情報」をご覧ください。

(3) 秋まき小麦

○赤かび病 1回目防除の7～10日後に防除しましょう。

○アブラムシ類

出穂10日後に1穂当たり7～11頭位寄生している場合は、防除が必要です。ほ場をよく観察しましょう。

(4) 大豆、小豆

定期的の中耕作業を行い初期生育の促進に努めましょう。

中耕作業は花芽分化前の7月上旬までに終了します。

5 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎病虫害・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省登録の薬剤に限ります。

容器に「農林水産省登録〇〇号」の記載があるので、必ず確認しましょう。

◎使い慣れた農薬であっても必ず「防除ガイド」を確認しましょう。

- ・適用作物
- ・使用時期（収穫前日数）
- ・希釈倍数、量
- ・成分ごとの使用回数
- ・使用期限

◎農薬の飛散防止に努めましょう。

